

第1章 研究開発の概要

1-1 学校の概要

- (1) 学校名・校長名 ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 校長 小谷 恭子
(2) 所在地・電話番号・FAX番号
岡山県倉敷市二子1200番地 電話 086-462-1661 FAX 086-463-0223
(3) 課程・学科・学年別生徒数、学級数及び教職員数

① 課程・学科・学年別生徒数、学級数 ※（ ）内は、理数系の生徒数。

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	154	5	141 (46)	5	149 (34)	5	444	15

② 教職員数（併設中学校の教職員を含む）

校長	校長補佐	教頭	教諭	講師	養護教諭	非常勤講師	事務職員	司書	その他	計
1	1	1	40	9	1	20	7	1	3	84

講師には外国人英会話講師を含む。その他は教務職員1名と寄宿舎舎監1名・舎監補1名。

1-2 研究開発課題

「生命科学コース」の導入から出発する女性の科学技術分野での活躍を支援できる
女子校での教育モデルの構築

1-3 研究の概要

少子高齢化、国際化の進展等、我が国をとりまく社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女共同参画社会の実現は重要な課題になっている。現在、女性の社会参画がさまざまな分野ですすんでいるが、科学技術分野への女性の参画はまだ低い水準にとどまっている。次世代の科学技術を担う女性研究者・技術者を育成していくためには、まず、女子の理系分野への興味・関心、国際化にも対応できる感覚と能力を高め、理系分野への進路選択を積極的に支援していくことが必要である。

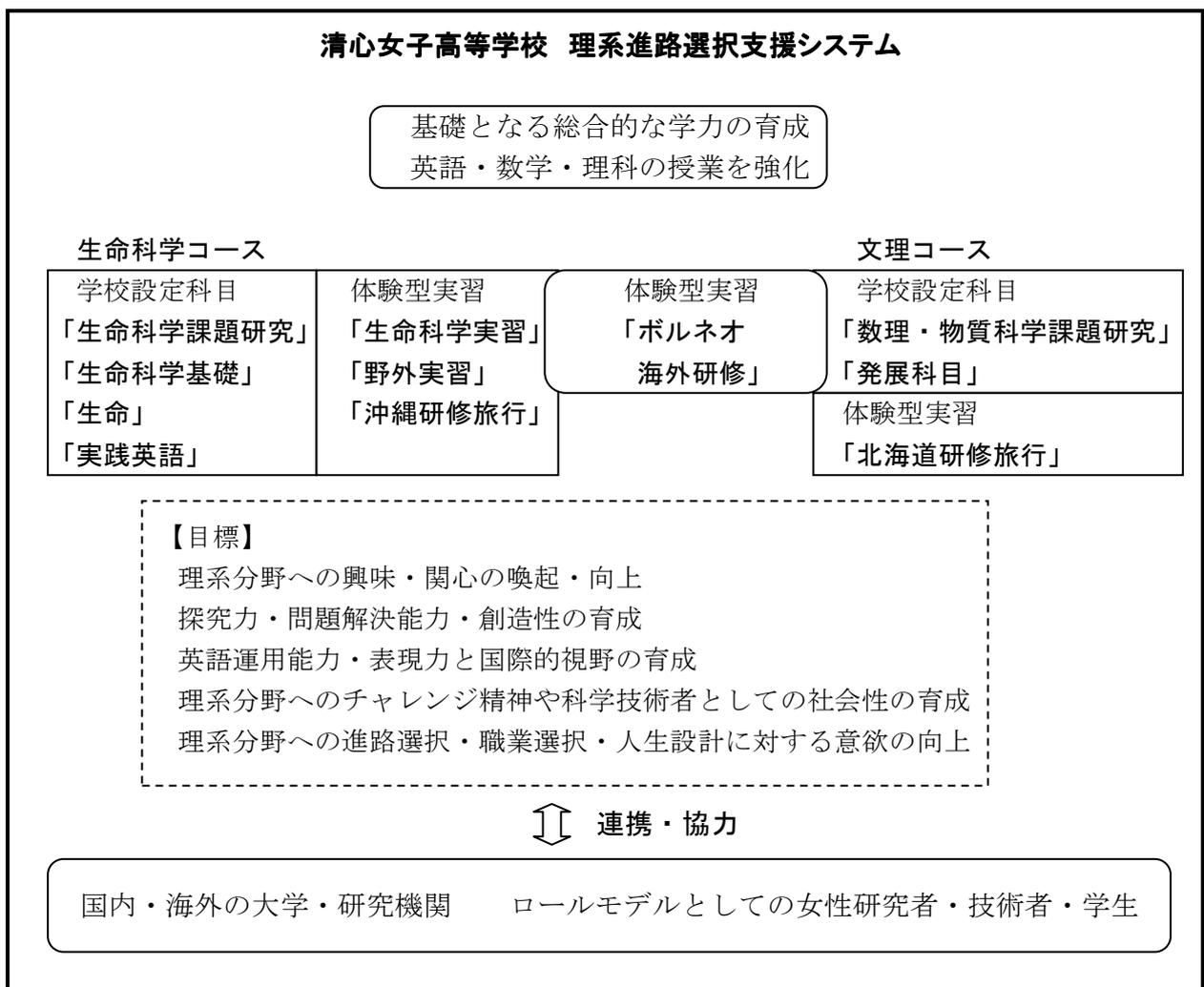
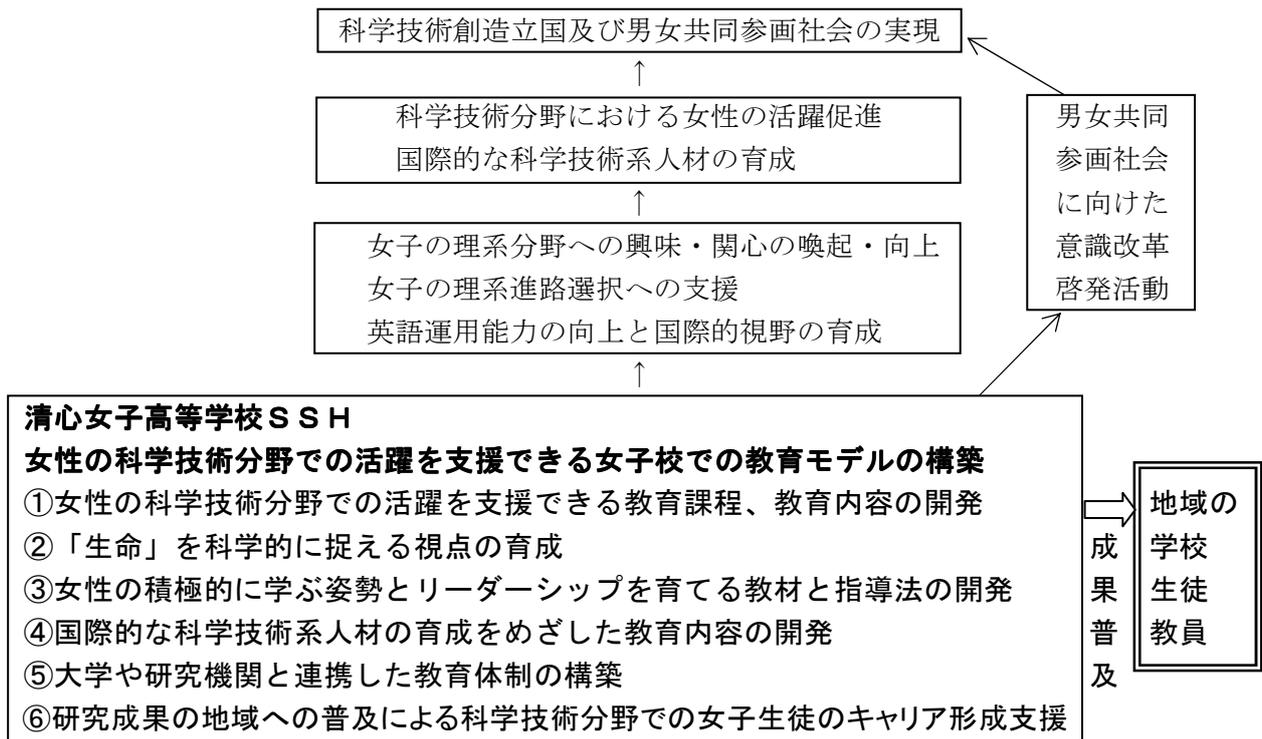
本研究は、平成18年度から設定している「生命科学コース」を中心に次の6項目を研究のテーマとして、女子の理系進学を支援し、将来、科学技術分野で活躍できる国際的な人材を育成する女子教育システムを構築し、女子校のモデルケースとしての実践を社会に発信することを目標とする。この女子校での研究活動が、21世紀にふさわしい科学技術のさらなる発展と男女共同参画社会の形成に寄与するとともに、女子生徒が科学技術分野へ夢をもって進んでいくことを積極的に受容できる社会へと変容するための意識改革や啓発活動としての役割を果たすと考えている。

- ① 女性の科学技術分野での活躍を支援できる教育課程、教育内容の開発
- ② 「生命」を科学的に捉える視点の育成
- ③ 女性の積極的に学ぶ姿勢とリーダーシップを育てる教材と指導法の開発
- ④ 国際的な科学技術系人材の育成をめざした教育内容の開発
- ⑤ 大学や研究機関と連携した教育体制の構築
- ⑥ 研究成果の地域への普及による科学技術分野での女子生徒のキャリア形成支援

1-4 研究開発の実施規模

本校では、普通科に入学時点から2つのコースを設定している。「生命科学コース」は、1年次から理系分野への進学をめざした教育課程となっている。「文理コース」は、2年次から文系・理系分野の科目を選択する教育課程となっている。本研究は、「生命科学コース」の生徒を主たる対象として、「文理コース」を含む全校生徒を対象に実施する。

1-5 研究の概念図（研究テーマと研究のねらい）



1-6 研究内容・方法及び検証

平成21年度の研究テーマ6項目と関連する実践内容は下表の通りである。

- ① 女性の科学技術分野での活躍を支援できる教育課程、教育内容の開発
- ② 「生命」を科学的に捉える視点の育成
- ③ 女性の積極的に学ぶ姿勢とリーダーシップを育てる教材と指導法の開発
- ④ 国際的な科学技術系人材の育成をめざした教育内容の開発
- ⑤ 大学や研究機関と連携した教育体制の構築
- ⑥ 研究成果の地域への普及による科学技術分野での女子生徒のキャリア形成支援

実践内容	テーマ	対象	実施時期
学校設定科目			
「生命科学基礎」	① ⑤	生命科学コース1年	週1コマ
「生命科学課題研究」	① ⑤	生命科学コース2年	週2コマ
「生命」	②④⑤	生命科学コース2年	週2コマ
「数理科学課題研究」	① ⑤	文理コース2年	週2コマ
「物質科学課題研究」	① ⑤	文理コース2年	週2コマ
「発展科目」	①②⑤	文理コース2年	週2コマ
「実践英語（科学英語）」	④	生命科学コース1～3年	週1コマ
体験型実習			
「生命科学実習」	①③⑤	生命科学コース1～2年	土曜日等、年5回程度
「野外実習」	②③⑤	生命科学コース1年	7月下旬
「研修旅行」（沖縄・北海道）	②③⑤	生命科学・文理コース2年	10月上旬
「海外研修」（ボルネオ）	③④⑤	生命科学・文理コース1～2年	3月下旬
講演			
「女性研究者講演・講義」	③⑤⑥	生命科学・文理コース	土曜日等、年2回程度
研究発表			
「学会等発表」	③ ⑥	生命科学・文理コース	年3回程度
科学クラブ			
「生物部」	② ③	生命科学・文理コース	放課後、土曜日等
「科学部」	③	生命科学・文理コース	放課後、土曜日等
発表会			
「SSH成果発表会・研究授業」	⑥	生命科学・文理コース	6月下旬・10月下旬
「女子生徒 科学研究発表交流会」	⑥	生命科学・文理コース	10月下旬

検証・評価の方法は、次の通りである。

- プログラムごとの生徒の興味・関心、理解力等の調査
- 全生徒を対象にした学習アンケートによるSSH主対象生徒と他の生徒との比較
- SSH主対象生徒のSSHについての意識調査
- 女子の理系進路選択に対する保護者の意識調査
- 保護者のSSHについての意識調査
- 教員のSSHについての意識調査
- 連携先機関の意識調査
- 女子生徒による科学研究発表交流会参加者の意識調査
- 運営指導委員会による評価
- 卒業後の進路と従来の卒業生との比較
- 卒業生の追跡調査

